

9月「Fotografie」 アントニア・シュルト



1.以前、課題にしたかもしれませんが、趣味の一つは写真撮影です。絵などを描く才能が欠けている私にとって、写真撮影の楽しみはさておき、真っ先に昇華の方法としてとても大事です。ここは説明をしないと伝わらない恐れがありますので、考えを整理しながら説明します。

要するに、私が写真を撮っている理由は主に二つあります。一つ目は、美しいと思うものや風景を見ると、その美しさに完全に魅とれ、残したい！という気持ちが押さえきれず、写真を撮ります。二つ目は、上記に述べたことについて、苦悩であろうが、至福であろうが、痛切に感じていることが大事ということです。そうすると、昇華がおこり、気持ちをアートにすることでその気持ちが別のステージに引き上げられるという意味です。

9月「Fotografie」 アントニア・シュルト



2.写真撮影に興味を持ってもう10年になると思います。私は本気でやっているつもりですが、本当にそうかどうか誰に聞くか返事が変わると思います。半分はギアさえあれば、誰でもいい写真が撮れるだろうと思います。そのような中で、抱えている私の悩みが入っています。説明しておきますね。私だと、インスピレーションになってくるもの、というのは美しいと思うものは大体自然、特に動物や飼っている犬や山の風景などです。写真を撮った後、まず好きなものを選んで、その98%ぐらいはゴミ箱ポイします。残りを編集して、中から一つ、二つをインスタかフェイスブックに載せます。インスタは写真が上手な人が非常に多いです。そういうレベルの高い写真を見ると、自分の写真に対して感じていた特別感がどんどんうすくなり、またださい写真を撮ってしまったなと思いながら落ち込んでしまいます。

9月「Fotografie」 アントニア・シュルト

3. SNSがなければ、写真が展覧できる場所もなく、見たり、反応したりしてくれる人もいないのは事実です。まあ、お母さんくらいは見てくれるでしょうが、それだけでは充実感が得られません。気づいたかな。今言っていることと上に書いたことが矛盾しているということ。もし写真を撮りたい気持ちが全て私の中から生まれたら、こんなに悩むことはないでしょう。やはり、「芸術至上主義」、ちなみに「アートを、ただアートとして」という概念は多くの場合、当てはまらないと感じています。特に、SNSの世界では、自己確認、自分の存在を認めてもらいたい気持ちが強い刺激となります。ものの価値を専門家の評価で決める傾向は昔からあり、別に間違っているとは思いませんが、昔と違って今は気軽に押した「いいね！」で決めるのがきわどいと思います。この前、新しいレンズ、割と高いものを買ってしまい、それで当たり前のようにやる気がピークになって、写真をたくさん撮りましたが、目が覚めると、人の虚栄を利用するSNSに頼って、反応を期待して写真を撮ってしまうと、空っぽなものしか作成できないと気づきました。



9月「Fotografie」 アントニア・シュルト

4.悩みを整理すると、人の関心を狙った物々しい写真は昇華にならず、恥を感じさせられますが、載せないことにするとしたら、評価もなく、スキルを磨く刺激もないという悪循環です。そして、この話も自由になりたいことに繋がっているような気がします。